



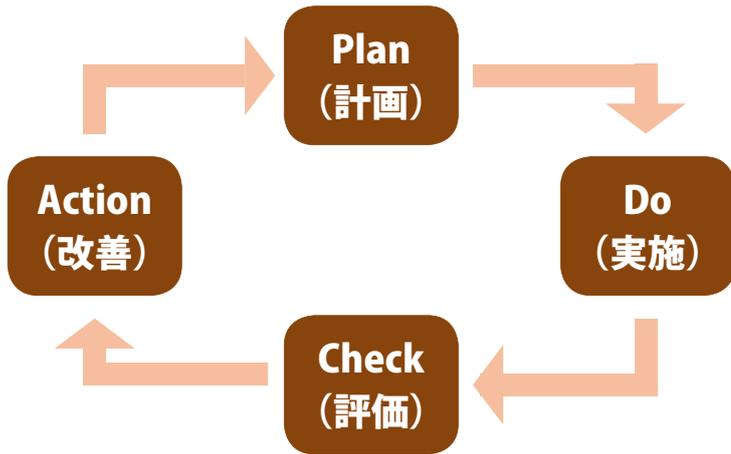
P D C A サイクルで事務事業を改善

平成23年度事務事業評価の結果を公表します

本町では、厳しい財政状況や多様化・高度化する住民ニーズに的確に応え、効率的で透明性の高い行政運営を行うとともに職員の意識改革を図るため、事務事業評価に取り組んでいます。

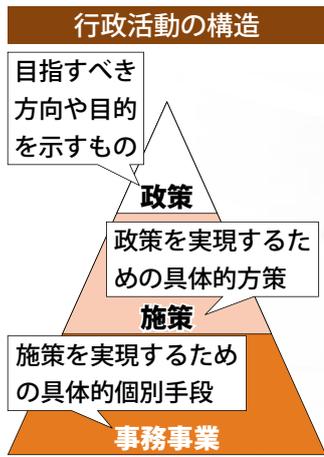
平成23年度に行った全事業（187事業）の事後評価を事業ごとに行い、取りまとめた結果を公表します。

【企画財政室総合政策課 ☎34・2083】



事務事業評価とは

事務事業評価とは、本町で実施している各事務事業の公共性、必要性、妥当性などを踏まえ、指標を用いて事業の進捗状況や成果を事後評価（自己評価）することにより、「Plan（計画）→Do（実施）→Check（評



評価の目的

P D C A サイクルを確立した行政運営を実現する

行政評価システムの運用を通じて、P D C A サイクルの定着を図り、行政サービス水準の向上と効率化、行政コスト削減を進め、住民が求める質の高い行政運営を実現する。

住民への説明責任を果たし、透明性の高い行政運営を実現する

行政評価の結果を住民に公表し、「施策」や「事務事業」の実施内容と目標に対する達成度を明確にするとともに税金の投入に対してどのような成果を住民にもたらしたのかを説明し、透明性の高い行政運営を実現する。

Vol. 34

町長日記

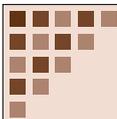
苛め問題



田原本町長 寺田 典弘

学校での「いじめ」が大津市をはじめ各地で問題となっている。学校や教育委員会が責任を追及されるのは当然だと思う。しかし私には、苛め問題が学校や教育委員会だけで解決できるような性質のものとは思わない。

元高校校長で著作家の一止羊大氏が書いておられたことだが、私たちは知らぬ間に苛めを助長することに手を貸していることがある。たとえば関西のお笑い番組では、背が低いこと、太っていること、間抜けであること、ぶさいくなこと、アホであることなど要するに相手の弱みをやり玉に挙げて笑いをとっている事が多い。この笑いのネタは、実は子どもが悪ふざけで相手を苛める時のネタと重なり合っている。悪ふざけがひとつ間違えば、相手を自殺に追い込むほどの苛めに発展する可



今月の話題

皆さんの生活に関係する制度やイベントなどを紹介するコーナーです。

平成 23 年度事業（187 事業）の事後評価結果

事業の点検

目標の達成状況

設定した目標に対して、成果が上がっているかどうかの評価結果です。

分類	事業数
目標どおり達成された	80 (42.8%)
概ね目標どおり達成された	103 (55.1%)
目標を十分達成できなかった	4 (2.1%)
計	187

事業の点検の評価を踏まえた

次年度の事業の方向性・実施方針

事業の方向性

次年度の事業の方向性についての評価結果です。

分類	事業数
現状のまま継続	156 (83.4%)
改善して継続	27 (14.4%)
廃止・休止	0 (0%)
完了	4 (2.1%)
計	187

経営資源の投入量

次年度の経営資源（事業費・労働量）の投入量についての評価結果です。

分類		事業数
事業費	削減	13 (7.0%)
	現状維持	145 (77.5%)
	増加	29 (15.5%)
	計	187
労働量	削減	6 (3.2%)
	現状維持	155 (82.9%)
	増加	26 (13.9%)
	計	187

平成 23 年度の担当部課別評価対象事業の内訳

部	事業数	課	事業数
総務部	39	企画財政室総合政策課	6
		企画財政室財政課	7
		秘書広報課	8
		総務課	12
		税務課	4
		契約検査課	1
		清掃工場推進室	1
住民福祉部	49	住民保険課	16
		健康福祉課	19
		長寿介護課	14
産業建設部	41	産業観光課	10
		まちづくり推進室	9
		建設課	9
		土木管理課	7
		環境管理課	6
上下水道部	11	業務課・水道課	6
		下水道課	5
教育委員会	36	教育総務課	14
		生涯教育課	12
		文化財保存課	6
		図書館	4
その他	11	会計課	1
		議事事務局	2
		選挙管理委員会事務局	8
合計	187		187

今後、事務事業評価を活用した行政運営及び精度の高い評価制度となるよう取り組みを継続し、行財政運営の改革・改善を行い、住民サービスの向上を図っていきます。

能性もある。他人の弱みを笑うのは卑劣で浅ましい根性であると言うことを子どもに正しく教えないといけないが、私たち大人が「不健全な笑い」にならされて、無意識のうちに苛めの土壌を耕している。

私の子ども時代には、今のような苛めは存在せず、時代が助長した側面があるように思ってきた。しかし子どもより大人の責任が最も重い。学校の先生もだが、私たち親がもっと子どもの表情や動作に敏感にならねばならない。私は県の地域教育力サミットの委員をしている。その中で教育は押しつけであってはならないと、もつともらしい意見を言う人もいる。しかし私は自我が確立している高校生以上は別にして、特に幼少期の子どもには押しつけ教育が大事だと思う。江戸時代会津藩校の日新館には「什の掟」があり、そこにはこう書かれていた。一つ年長者の言うことに背いてはなりません二つ年長者にはお辞儀をしなければなりません三つ虚言を言うことはなりません四つ卑怯な振る舞いをしてはなりません五つ弱い者をいじめてはなりません六つ戸外で物を食べてはなりません七つ戸外で婦人と言葉を交えてはなりません八つ七箇条の後は「ならぬことはならぬものです」と結ばれている。要するに駄目なことは駄目。理屈じゃなく、してはいけないことはいけないと教えることが何よりも大切である。